東南アジアの自然と農業研究会　第199回例会

# 熱帯アフリカにおける多生業と脱農業
# ―カメルーン南部の事例から―


## 坂梨 健太 氏

（京都大学大学院 農学研究科）

## 日時

2024年12月5日（木）17:30～19:00

## 開催方法

対面（京都大学本部キャンパス
総合研究2号館4階 AA447会議室）
とZOOMのハイブリッド開催です。
下記サイトより事前にお申し込みください。
https://forms.gle/VnDiSVJ7oVSHDxXL8 （当日12:00締め切り）

## 要旨


熱帯アフリカに暮らす人びとは焼畑農耕だけでなく、狩猟採集や漁撈など多様な生業活動もおこなっている。これらの多生業はリスク回避または現金収入の拡大のためであると捉えられる。他方、農村内での賃労働や都市への出稼ぎの機会の増加などによって脱農業（脱小農化）が進んでいるという議論もなされている。本報告では、カメルーンのカカオ生産地域を事例として、季節性や他民族との関係を考慮に入れながら、多生業と脱農業の動きを別々のものと捉えずに相互の連関していることを概観する。さらに多生業と脱農業の関係から熱帯アフリカの農業や農民像の再考をおこなう。しかしながら、ある地域の事例を用いて、熱帯アフリカの特徴を示すことは本質主義であるという批判を免れない。批判を引き受けつつ、アフリカの多様な地域や国をあえて「アフリカ」という言葉で一括りにしながら、人びとの生をポジティブにとらえようとしてきた研究を批判的に検討し、地域全体の特徴を示す意味や問題点、可能性について議論をおこないたい。